



生駒利治議員

## 環境保全

# ノロウイルス対策は 除去方法を試験中

**質問** 大浦、大沢両終末処理場の試験内容と成果は。

**沼崎町長** 大浦の終末処理場では、新日鐵が平成十三年十一月から平成十五年三月まで、光触媒によるノロウイルスの分解性能実験を行い、下水処理水中のノロウイルスを九〇％以上分解できることを確認した。今後の課題として定期的に触媒装置の酸洗浄をしない

と分解効果が低下することと、処理水中に何個までだったら養殖漁場に影響がないのか、消毒目標値の設定の更なる検討が必要なようである。

大沢の終末処理場では、日立プラントが平成十五年十二月末から、膜分離活性汚泥法によるウイルス除去性能について現地試験を行っている。昨年十二月に

中間報告を受けているが、いずれの試料にもウイルスは認められなかった。これについては、昨年はノロウイルスの発生も少なかったこともあり検出限界付近のデータであることも予測される。そのことから、昨年

十二月で現地試験を終了の予定であったが、三月まで、継続の要請があり、現在も現地試験を行っている。



大沢の終末処理場で行われているノロウイルス除去試験装置（生食用カキを生産者が安心して出荷できる浄化方式の確立が求められます）

## 漁港整備

# 町営漁港の高潮対策を急げ 県工事で行うよう強く要望

**質問**

町内の町営漁港の防潮堤高上げ工事は、既に完成、または着工中であるが、町営漁港の見直しはどうか。特に織笠地区は細浦地区を始め町全体が低地にあるので、その

対策が急務である。町の対応を問う。

**沼崎町長** 織笠川水門工事が平成二十二年度の完成予定であり、当漁港の防潮堤高上げは、水門の前面施設として整備の重要性は十



織笠川水門工事は平成22年度完成の予定で進められます（織笠川河口）

分理解をしている。

県との協議に基づく計画では、整備は平成二十三年度から十カ年で、総事業費約十五億円、整備延長千三百三十メートル、現在の堤防の高さ四・八メートルに一・八メートルの高上げを行う予定としている。現時点での整備の見直しは、財政事情が先行き不透明であり、新規事業への着手が非常に難しい状況であるので、去る一月十七日に、県工事を取り組んでもらうよう強く要望しているところである。